



語り部通信

令和5年度秋号（通算第37号）

福井市歴史ボランティア「語り部」

秀康に見る敗軍の将へのいたわりの心

暑かった夏、最近は朝窓から入る冷気にほっとします。さてNHK「どうする家康」、福井ゆかりのお万の方や秀康は少し登場したものの、何となくもう出ないのかとの想いもよぎります。語り部として福井城址のガイドでは、お堀や石垣の妻さを伝えても秀康の晩年頃の人物像まで触れる時間的余裕はありませんね。関ヶ原の合戦の前後に見せた敗軍の将石田三成（佐和山城への護送）や上杉景勝へのいたわりの心には感動を覚えます。

上杉と一戦も交えずして68万石の恩賞を得た秀康。父家康は十分その力量を見抜いていたのでしょね。「どうする家康」最後まで楽しみましょう。そして秀康のすばらしさをもっと伝えていきましょう。

■福井市の小学校・中学校の歴史学習のお手伝いが始まりました



左内公園でのガイドの様子

5月 東藤島小学校6年生32名に郷土の歴史と偉人達の功績を学ぶためのガイドを行いました。この寺の宗派は？祀られているのは？など鋭い質問もありました。

学習の目的には、歴史を知るだけにとどまらず、「観光」も視野にあるようです。子どもたちも自分の故郷をどのようにアウトプットしていくか課題のようですね。

ガイド担当者のレポートです。

ガイドしていて印象に残ったことを3つ上げると、一つ目は、西光寺で住職さんが笏谷石に水をかけたら、全員が「オー！」と驚いたこと。二つ目は、お市の方とクレオパトラはどちらが美人なの？と、生徒さんの難問があったこと。三つ目は、水道記念館の広場で手押しポンプを力いっぱい押して水が出てきたら、ポンプの周りを囲んだ全員が喜んだことです。（吉岡）



安居中学校、朝倉氏遺跡でのガイドの様子



和田小学校、北ノ庄城址でのガイドの様子

■福井市広報番組に出演

福井市広報番組（ケーブルテレビ）の「日本遺産福井・勝山 石がたり」を紹介する番組で「語り部」が撮影のお手伝いをしました。写真は半石半木の九十九橋と笏谷石について語るリハーサルの様子です。



■令和5年度福井県ボランティアガイド連絡協議会語り部発表会・交流会

8月30日に勝山市民交流センターで開催され、平野会長が福井県ボランティアガイド連絡協議会会長として挨拶。県下から16団体69名の参加「語り部」からは6名の参加でした。午前中は勝山ボランティアガイドの発表、午後からまち歩きをしました。



■夏休み自由研究お助け隊「集まれ福井城お城の学校」



今回の内容は福井城に関する講座を約45分 周辺のまち歩き 1時間の予定でしたが、この日も猛暑日です。

予定していたまち歩きのコースを短くし、40分ほどのコースで行いました。まずアオッサ6階で「福井城の大きさを知ろう」のお話から始まりました。暑さも気にせず、私たち語り部の話を、熱心に聞いてくれる子どもたちの表情が、なんともかわいかったです。歴史を通してふるさと福井に、誇りをもってくれることを期待します。

語り部の日常の活動を紹介します。

ブログ

うらのまち「語り部」ふくい

語り部ではグループ学習会を行っています。「継体天皇のあしおと」グループの報告

足羽神社や継体天皇の母方の郷、高向神社を見学。また四季の森資料館では継体一族の資料を学習しました。



ガイドや歴史講座のご案内 歴naviふくい

「一乗谷朝倉氏遺跡」、「養浩館庭園」、「福井城址」などの福井市内の史跡や、ご希望のコースをご案内します。

語り部と学ぶ歴史講座のテーマ名も紹介されています。歴史ガイドの申し込みや歴史講座の講師依頼もこちらへ



笏谷石を訪ねて

YouTubeで紹介

大安禅寺石がたり越前松平家御廟 千畳敷



大安禅寺にございます越前松平家の御廟 千畳敷を語り部が、ご案内します。主に、規模の大きさを語ります。



よもやま話

吉野川について

田上 啓一

吉野川は古くから吉田郡永平寺町の吉野ヶ岳を水源とし、北の庄城下にむかい足羽川に流れ込んでいた川筋でした。さらに、九頭竜川からは流れ出た支流が、松岡町の原目あたりで吉野川と合流し、水量がとても多い川となっていました。右記の絵はわたくしが、「越前国絵図」に描かれている川をスケッチしたのですが、絵図には松岡あたりから北の庄にかけ、九頭竜川から足羽川に通じる吉野川が描かれています。

水量の多い吉野川では水運での物流が発達し、足羽川を経て三国湊へ運ぶ舟で賑わっていました。また近世以前にはこの吉野川から灌漑用水路が各地に引かれ、中世の藤島荘・足羽御厨（あすわのみくりや）の荘園開発のためにも重要な役割を果たしてきたとも考えられています。

越前国を拝領した結城秀康は福井城下・城郭の建築の際、大野郡から使用する大量の木材などを九頭竜川・吉野川の水運を利用し、城下に運び込んだのです。また柴田勝家は城郭の防御のために、吉野川と足羽川合流地点を北ノ庄城郭の背後に置き、また秀康公は吉野川を利用して「百閒堀」を築き、吉野川は福井平野を流れる他の河川と同様に、越前国にとっては大変に重要な川でした。そういった事から江戸時代初期の「越前国絵巻」には、一本の川として吉野川の川筋が明確に描かれたといわれています。

では何故、そのような重要な川が無くなったのでしょうか？

その理由は、古くから吉野川下流では九頭竜川・足羽川の増水時には水害になる事も多く、北の庄一帯に被害を与えていた為に秀康公は水害から城下を守り、人々が安心して住めるような都市づくりをめざしたからです。そうしたことから福井城下と城郭の治水対策をまずは優先させ、

- (一) 城下を洪水から守る事、
- (二) 城下周辺の農業用水を確保する事、

(三) 福井城郭と城下へ飲料水の安定した供給等々、に配慮した大規模な河川工事を行いました。そして家老本多富正が直接指揮をとり芝原用水の建設や、吉野川の川幅を狭めて現在の荒川に流路を変更したりした結果、福井城下はその後には水害になる事もなく、越前国の中心地としての役割を發揮できる都市となり、後の福井の礎となったのです。

秀康公は父の徳川家康の武蔵の国づくりを大いに学び、福井城下の都市づくりに、それを大いに生かしました。家康公の国づくりの思想は「国づくりは、水路の整備により住める土地を創り出すこと」であり、そうする事で人の暮らしが豊かになり経済も安定し、国の繁栄と平和をもたらすと考えたのです。福井の町づくりの原点は、偉大な徳川家康公の「武蔵の国作り」が原点だったのですね。



【編集後記】北陸新幹線金沢敦賀間開業日が来年3月16日に決定。またJR福井駅高架下の新しい施設の名称も「CURU-F福井駅」となり、多くのお客様をお迎えする準備が着々と進んでいます。私たち語り部も自分磨きをしながら準備していきたいですね。

【発行】福井市歴史ボランティア「語り部」
(公財) 歴史のみえるまちづくり協会